

令和6年度 「前期・音楽科特別講座」 東京会場 講座レポート

令和6年8月20日(火) 荒川区立汐入小学校
主催:音楽教育推進協議会
協賛:株式会社ヤマハミュージックジャパン

選択講座1 <【わたしの授業】子どもと教師の「遊び心」を音楽づくりの授業でいかす>

～「即興的に表現する活動」と「音を音楽に構成する活動」のよさ、面白さ、「教師の役割」にも目を向けて～

講師:平野 次郎先生



全国各地に平野先生のファンは多く、リピーターも多い人気の講座ですが、このメンバーで研修できるのは最初で最後。受講者は、一日だけの「平野学級」の子どもになって、たくさん学びのある楽しいひとときを過ごすことができ、貴重な体験をしました。

ペアやグループで手拍子やリコーダーを使って、実際に「音楽づくり」活動をしました。活動の楽しさだけでなく、その過程での教師の見取りと声かけが、子どもたちにとってとても大切であるということを感じました。子どもの立場での体験を通して、教師の「価値付け」の大切さにも気付きました。平野先生の授業から、条件設定や子どもが選択できる場の設定をすることに加え、「遊び心」をもち楽しく活動を進めることも学びました。

この講座を通し、子どもたちを勇気付け確かな力を育む「教師の役割」についても考えることができたことは、受講者にとって大切な宝物です。



音楽教育推進協議会 常任理事

選択講座2 <【私の授業】音楽のオモシロさに迫るための提案>

講師:伊藤 雅美先生



伊藤先生の実践を通して、「音ではじまり、音で終わる」「音で起立、着席、拍に合わせた挨拶、片付けも音楽で」「常時活動では今日の授業のねらいと繋げて構想すると効果的」「子供の書いた音楽ノートの実物」など、常に具体的な場面や模擬活動で進められました。

「うれしい感じ」「かなしい感じ」のワークショップは実際にグループで音作りを通してリズムだけで感情を表現できるよさを体感しました。「何を変えたらどうなったか」というここでのリズムの学びが、6年生の合唱の表現に繋がって行きます」の言葉など、確かな実践に裏打ちされた系統的な音楽の学びづくりの具体に学ぶ講座となりました。



- 1.音楽は音で勝負
- 2.記録に残す 記憶に残す
- 3.関東甲信越音楽教育研究会 長野大会「発見！音楽のオモシロさ」
【歌唱部会】【器楽部会】【創作部会】【鑑賞部会】への 私の授業からの提案
- 4.文化庁「学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業」
- 5.義務教育でつけておきたい力 ・拍をつかむ力(拍感)とタイム感
- 6.校内・家庭・地域関係とのつながり
- 7.活動で伸びる、関わりで伸びる、評価で伸びる
- 8.時間厳守は自分から・先生自身が時間感覚を身につける

音楽教育推進協議会 常任理事

選択講座3 <子どもが夢中になる「うた授業」とは??>

講師:岩井 智宏先生



岩井智宏先生を講師にお招きし、「子どもが夢中になる『うた授業』とは??」をテーマとする選択講座3は、体育館を会場に、終始明るく和やかで楽しい雰囲気の中で行われました。

講座の前半では、子どもたちが音楽や音楽授業に抱いているイメージを把握した上で、どのように抵抗感を少なくして、「うた授業」に自然に引き込んでいくことができるか、先生がこれまで実践を重ねられ、子どもたちが体験した内容を、実際に受講者も体験しながら、説明を受けました。

講座の後半では、「おぼろ月夜」を用いて、曲の強弱に着目して、強弱の変化にあわせて立ち上がったたり、あるいは座ったりといった身体表現を伴う「うた授業」を体験したり、受講者同士でペアになって、意見を交換しあったり、一緒に身体表現をしながら歌い合いました。

最後は「しあわせになあれ」の大合唱で締めくくる大変アクティブな講座となりました。



音楽教育推進協議会 常任理事

選択講座4 <新しい教科書×ICTで創り出す、持続可能な音楽授業>

講師:小梨 貴弘先生



当日は、ICT活用の第一人者である小梨先生の講座で学ぼうという先生方の意欲的な雰囲気の中で、緊張感溢れるスタートでしたが、小梨先生の上手いリードで、すぐに和やかな雰囲気で講座が進められました。

講座は、新しい教科書の中から教材を抜粋し、各領域における実践紹介を中心に、学習効果を高めることを目的としたポイントが次々に紹介されました。その他にも指導者用デジタル教科書の活用方法や、学習用アプリ、学習用webサービスの紹介や効果的活用のポイント等、実際に明日からの授業で使用できる内容ばかりでした。

冒頭と最後に、「今日学んだことを、自分だけのものにせず、校内の伝道師となって音楽を授業で持つ担任の先生方にも広めてほしい」ことを繰り返し言われていました。ICTを使用することにより、楽器や歌が不得意な担任の先生方にも充実した授業ができるようになる。そのことは、その子供たちをやがて受け持つ音楽専科にとって、そして子供たちにとってもプラスになることを強調されていました。100分間があっという間に過ぎた充実した時間でした。



音楽教育推進協議会 常任理事

選択講座5 <鑑賞の授業づくり×2学期初めの常時活動>

講師:松長 誠先生



講座の始まる前から、松長先生の笑顔と自然と身体が揺れる音楽が会場に流れ、「これから楽しい講座が始まるぞ」という雰囲気にもまれた。まさに2学期初めに児童を受け入れる大切な要素だ。

講座は「2学期初めの常時活動」「鑑賞の授業づくりの実際」という2つの内容に分けられていたが、いずれも、参加者が自ら考え、表現し、評価し合うという流れで進められた。

「2学期初めの常時活動」では、鍵盤ハーモニカで誰でも出来る1音吹き、黒鍵音だけの即興等参加者全員でつなぐ音あそびをとおして、呼吸法、コミュニケーション、アンサンブルや即興の力を養う内容を学んだ。

「鑑賞の授業づくりの実際」では、ハンガリー舞曲第5番をとおして、発問の仕方、聞き比べ、体を動かす等参加者がグループで考え、活動することで『授業づくり10のヒント』を具体的に体現し明日からの実践に結び付けることができた。

ICT機器を活用した鑑賞の授業づくりでは、個別最適な学び、協同的な学びを教師が仕掛けることが大切であること、そして授業の中で活用できるようタブレット端末にプラスすると便利なアイテムの貴重な情報をいただくことができた。



音楽教育推進協議会 常任理事

選択講座6 <“好き”を育む導入期からの指導のコツ ~鍵盤ハーモニカとリコーダーを通して~ >

講師: 吉森 祐也先生



鍵盤ハーモニカとリコーダーは教育音楽の中で大事なアイテムでありながら、その基本的な知識や活用方法を教師側はどれだけ意識できているのでしょうか。そんなことを考えさせられる講座でした。

鍵盤ハーモニカの導入では、授業中の子供たちとの約束事の大切さについての話がされると、多くの先生方が頷いていました。演奏についてはタンギングは技能ではなく表現であるという言葉が印象的でした。また、ホース部分だけを使った活動を評価に使える、鍵盤にシールを貼る場合の具体的な方法等、すぐに授業に取り入れられる内容も提示されました。

リコーダーでは唄口を温めるとか姿勢についての基本的な話の他、ヤマハデジタル音楽教材『ソプラノリコーダー授業』の点数表示に、その関心の高さを先生方の笑顔から感じました。

最後は全員での鍵盤ハーモニカとリコーダーの合奏でした。次第に先生方の表情や身体の動きから子供と同じように音楽を楽しんでいる様子が見られ、“好き”を育むことから始まる音楽活動を体験できる講座でした。



音楽教育推進協議会 常任理事

選択講座7 <授業でお役立ち！打楽器活用術>

講師:清水 郷子先生



本講座は、打楽器奏者の清水郷子先生をお招きして、学校にある身近な打楽器の奏法やメンテナンスを学びました。

小学校で一番初めに手にする楽器のカスタネットはゴムが命！隣の人の肩をたたく→その手の形でカスタネットを打つといい響きが！（タンブリンもこの手の形で！）トライアングルのひもは、身近な物で代用オッケイ！トレモロの強弱も実に簡単に！ウッドブロックは打つ場所、クラベスは握り方が大切！タンブリンでクレッシェンドとデクレッシェンドは、上下の動きでできる！（目からうろこ）等々

とても丁寧でユーモアがある清水先生の講座は、先生の実演があり、受講生の実技演習があり、あっという間の100分間でした。受講生の皆さんも熱心に取り組まれていて、「もっと教えてもらいたい。」という声をいただきました。

2学期からすぐに使える講座内容だったので、各学校でより子供たちが楽しむことのできる器楽の授業が期待できそうです。



音楽教育推進協議会 常任理事

講座I 【今、音楽教育で大切にすべきことは何かー過去と未来を見据えてー】 講師:津田 正之先生



学習指導要領全面実施5年目の今、改めて現行指導要領(学習評価)の確かな理解に基づいた学習指導を着実に充実するために、現行学習指導要領の特徴や求められる学習指導の在り方を再確認しました。特に「音楽そのものに関わる資質・能力」の育成を目指したこと、そのために学習方法として「主体的・対話的で深い学びの実現」「個別最適な学びと、協働的な学びの一体的な充実」のポイントについて理解を深める場になりました。

津田 正之

講座II 【・・を学ぶ、・・で学ぶ、・・から学ぶ】 講師:富澤 裕先生



今回の講座では、ただ歌うだけではなく、楽譜から表現を読み取ること、それを実際の音にしていくこと等具体的な指導のポイントを示しながら、夢中になって上手くなることを楽しむという“音楽から”得る手応えを感じ取っていただけたらと願いながら行いましたがお役に立てましたなら幸せに思います。

富澤 裕